

平成26年 2月

岩本秀人 学位論文審査要旨

主 査 押 村 光 雄
副主査 岡 田 太
同 武 中 篤

主論文

Serum miR-210 as a potential biomarker of early clear cell renal cell carcinoma

(淡明腎細胞癌の早期診断マーカーとしての血清microRNA-210)

(著者：岩本秀人、神田裕介、瀬島健裕、尾崎充彦、岡田太、武中篤)

平成26年 International Journal of Oncology 44巻 53頁～58頁

参考論文

1. The efficacy of target biopsy of suspected cancer lesions detected by magnetic resonance imaging and/or transrectal ultrasonography during initial prostate biopsies: comparison of outcomes between two physicians

(MRIおよび経直腸エコーで前立腺癌が疑われる領域に対し、系統的な前立腺生検に追加して行うターゲット生検の有用性に関する検討：2人の術者での結果の比較)

(著者：岩本秀人、弓岡徹也、山口徳也、井上誠也、眞砂俊彦、森實修一、八尾昭久、本田正史、瀬島健裕、武中篤)

平成26年 Yonago Acta medica 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は血清中microRNA-210を用いて、これまで早期診断が困難とされていた腎細胞癌において、簡便で低侵襲な早期診断マーカーとしての有用性を検討したものである。その結果、腎細胞癌（淡明細胞癌）の組織および血清中のいずれにおいても、正常と比較してmicroRNA-210が過剰発現していることが確認され、またその発現量は年齢や性別、腫瘍サイズ、転移の有無との相関を認めないことから、早期診断のマーカーとして有用である可能性が示唆された。本論文の内容は、早期診断が予後改善の鍵となる腎細胞癌の治療分野において、血清中microRNA-210を測定することで早期診断を実現する可能性を秘めており、明らかに学術水準を高めたものと認める。